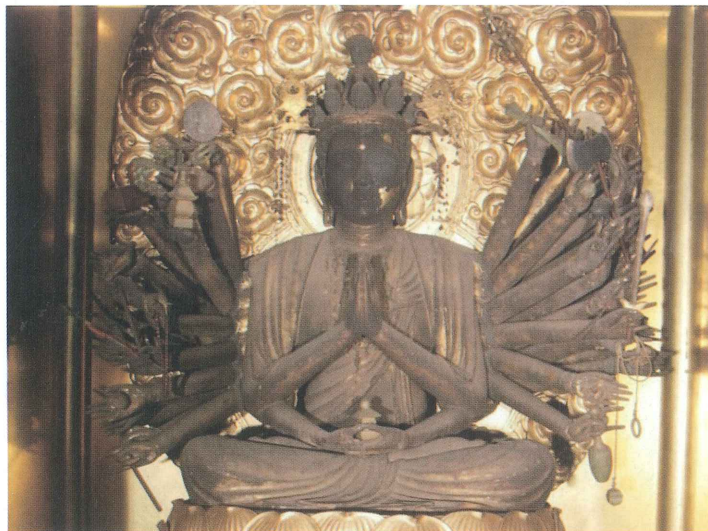


木造千手觀音菩薩坐像



〔指定年月日〕平成三年一〇月二八日
〔種別〕有形文化財（彫刻）
〔名稱〕木造千手觀音菩薩坐像
〔点数〕一軀
〔所有者等〕光明院
〔所在地等〕上荻二―一―三

木造千手観音菩薩坐像

本像は光明院の本尊で、本堂須弥壇上の厨子内に安置されている。像高七八cm、面長一三cm、一面四二臂の像で奇木造りである。元来は全体に漆を塗って金箔をおいた漆箔造であったが、永年の香煙が厚く体を蔽い現在はくすんだ色合いになっている。

化仏は頂上仏を中心に、左右の垂髻部に二面、地髪部に八面の一一体の小面を差し込みに行っている。頭髮は頂上仏は巻髪、他の化仏は高い髻にあらわし、いずれも丸味を帯びた豊かな頬をしている。

本面は、白毫は水晶を嵌込み、彫眼でやや伏目で鼻や口などの彫りは鋭く、端正な面持であるが右頬の部分に傷みの跡がある。火災の時に受けた焼跡と思われる。

左右の手は各々二一本あり、補修の跡や柄が抜けているものも見られるが、ほぼ完全な状態である。また衣紋の彫出しは鮮かで、洗練された手法を示している。

なお本像は現在秘仏であるが（五月の第三日曜と七月一日開帳）、昭和初年頃までは、本像の写しの仏像が檀家を巡って人々に親しまれ、帰山の時には大護摩が焚かれたという。

本像は区内では数少ない室町時代の作で、格調の高い坐像の千手観音像として貴重である。

【文化財所在地】

